

Q

人口減少対策について聞きたい

A

子育て支援の充実等に取り組み市の魅力をPRしていく

清水 睦

問 人口減少を少しでも食い止めるための対策について聞きたい。

答 「子育て支援の充実」「医療機関・医療体制の充実」「雇用の創出」などの施策に取り組むとともに市の魅力を広くPRしていく。

問 市営住宅の入居条件は市内在住・在勤となっている。市営住宅を増築して市内在勤の方を市民にしては。

答 市営住宅は充足しており増設の計画はない。

問 今後どうやってUターン組も含め新規就農者を増加させていくのか。建物付きの農地をあっせんしたらどうか。

答 今のところあっせんは考えていないが、今後の新規就農者の確保について他市町村の事例も参考にしながら幅広く検討する。

学校給食について

問 消費税増税・材料の高騰に伴い、給食費の値上げや弁当の日の増加等を検討しているようだが、どちらも行わずこの際、給食費を無料にできないか。

答 食材費については、従来通り保護



者に負担してもらおう。給食費の改定等についても、検討していかねければならない課題と考えている。

Q

全国ゆりサミットを深谷市で開催するのか

A

開催する方向で検討中である

馬場 茂

問 全国ゆりサミットを深谷市で開催することが決まったと聞いているが、どのような経緯なのか。

答 近年、落ち込みつつある花きの消費拡大と2月の大雪被害による被災農家の復興支援的な要素を踏まえ、深谷市花き生産組合連合会より「深谷花フェスタ」と同時開催の申し入れがあった。花き振興に有効であると考え、第1回目の開催を目指し、他の産地及び関係機関との調整に取り掛かっている。

問 どのような企画を考え、どのような成果が期待できるのか。

答 全国に向けて花き産業のPRに大きな効果が期待できると考えているが、まだ具体的な企画は決まっていない。

大雪被害の再建は進んでいるのか

問 大雪被害から半年経ったが、施設の再建率は22・3%と近隣市町村と比べて低い。何らかの対策が必要では。

答 再建面積は他市町村と比べて低くないが、再建対象面積が大きいいため、再建率の数値が低くなっている。また、



「緑の王国」事務所棟

人手不足や資材不足により、着工が順番待ちになっている。

「緑の王国」の事務所棟の建て替えについて

問 計画はどのようなものか。

答 今年度は解体工事設計を行い、来年度解体工事を実施する予定である。事務所棟の建て替えについては、施設の設定方法や必要性・費用対効果を考慮し、また王国ボランティアの皆さんの意見も聞きながら検討していく。

Q

健診センター・メヂカルセンターの移転、建て替えは

A

機能再編を考慮し移転、建て替えを予定している

柴崎 重雄

問 常盤町地内の健診センター・メヂカルセンターの耐震性、老朽化により移転、建て替えが検討されている。その経過と今後の予定は。

答 関係団体の医師会の意向を尊重しつつ、用地確保、建設コスト、市民の利便性、機能再編等を考慮し移転、建て替えを予定している。メヂカルセンターは上柴町西3丁目、休日急患・子ども夜間診療所は国済寺土地区画整理事業地内に移転する予定であり、建設及び運営は、医師会が行う。

深谷市の自然災害時の対策は

問 地震、台風、ゲリラ豪雨、竜巻、雪害等による災害が各地で発生している。深谷市の災害時の主な対策は。

答 市民の生命、身体及び財産を災害から守ることを目的に「深谷市地域防災計画」を、市職員向けに「災害対策初動マニュアルの震災編、風水害編」を策定、災害への適切な対応をめざし、総合的防災体制を構築している。また、自主防災組織は、市内202自治会のうち119自治会に組織され、世帯数



市総合健診センター

で組織率は61・66%となっている。

世界文化遺産と渋沢栄一関連 富岡製糸場設立時の渋沢栄一、尾高惇忠、荏塚直次郎は大きな功績を残している。この三偉人のPRと来訪者の交通手段は。

答 児童向けワークシートの作成配付、市内小・中学校へのパネル掲示、企画展、論語の里でミニ講座、道路案内板の設置等でPRし、交通手段は様々な機関と連携しながら対応したい。

Q

「産後ケア」の支援充実をはかつては

A

事業実施の環境にない。今後研究していく

五間 くみ子

問 子どもを産み育てやすい社会の実現には、妊娠から出産、子育て期の切れ目のない支援が必要である。「産後ケア」事業は、出産後に施設等において宿泊や日帰りで授乳指導や育児相談を受けることができる。母子の孤立化を防ぎ、育児ストレス等の解消がはかられ安心して子育てできるよう支援する事業である。本事業に取り組むには。

答 核家族化の進行により、今後必要性は高まってくるものと考えている。国・県の動向を注視し本市の状況にあった支援について研究していきたい。

問 今年度から認知症予防教室と認知症の方やその家族の支援ということで認知症カフェの開催を予定している。

問 携帯電話やパソコンで簡単に認知症チェックができるものに「認知症簡易チェックシステム」があるが、導入については。

答 簡易であり、チェック後の状況に応じて相談先も表示できるなどの利点がある。認知症の周知にも効果が期待でき導入には前向きに検討していく。

認知症はまず周囲の気づきから

問 認知症対策は、事後的対応から早期発見・早期診断へとつなげることに重点を置いてきている。本市における現状の気づきから初期支援への体制は。

答 地域包括支援センターにおいて総合相談支援事業を実施している。まずは、そこへ相談いただき、その後は医療機関、介護事業者等と協力・調整し対応、支援している。

問 現在している認知症予防や支援は。

「これって認知症？」



認知症簡易チェックシステム

「議会あれこれ」一般質問ってなあに? 議案質疑とは別に議員が市の行政全般にわたり執行部側に対し自由に質問できるものです。9月議会では15人の議員が質問をしました。

一般質問記事の掲載は、通告順です。